研　究
ノート

多気地域の観光資源分析による地域振興の可能性に関する考察

A consideration of the possibility of regional development in Tage area
: based on tourism resource analysis

吉　野　清　史（宇都宮共和大学 客員研究員）

本稿は，宇都宮共和大学都市経済研究センターにおいて進められている「城山地区の地域・観光振興に関する共同研究」に参画し，その研究の一環として実施した城山地区の観光資源に関する調査結果をもとに，当該地区の新たな地域振興の可能性を追求するものである。

宇都宮市の観光拠点として注目を集めている大谷地域の現状や課題を把握するとともに，台風の被害やコロナ禍の影響等により，先行きが不透明となっている当該地域の現状の打開策を，近接する多気地域を含めた観光資源の活用に求めることの可能性について検討することにより，城山地区の地域振興，さらには宇都宮市全体の観光発展に資するべく考察を行った。

キーワード：宇都宮市，地域振興，大谷観光，多気地域，観光資源

1　はじめに

宇都宮市の大谷地域は，観光拠点として注目され，ここ数年で順調に観光客入込客数を伸ばしているが，2019 年 10 月に発生した令和元年東日本台風による被害や，新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて，先行きが不透明な状況となっている。

本稿では，大谷地域における地域振興の現状と課題を把握するとともに，近接する多気地域に焦点を当て，この地域が有する地域資源を洗い出し，観光資源としてブラッシュアップすることにより，これまでの大谷観光と連携した新たなストーリー性を有する観光動線を形成し，地域の魅力を高めることの可能性を追求する。観光による地域振興を持続可能な形で推進するためには，地域の関与が重要な要素となっていることから，城山地区における地域の取組について言及するとともに，行政・事業者・地域との効果的な連携の在り方についての検討も併せて行っている。

２　宇都宮市の観光政策における大谷地域の位置づけ

２．１　宇都宮市における政策的位置付け

２．１．１　総合計画・観光振興プラン

宇都宮市は，第６次総合計画において，「将来のうつのみや像（都市像）」の実現に向けて，「６つの未来都市」の１つとして「魅力創造・交流の未来都市」を掲げ，戦略的観光事業の推進，大谷の地域資源のフル活用に向けた新たな観光スポットの創出やニューツーリズムの推進，歴史・文化資源に触れる機会の充実などに取り組むとしており，日本遺産に認定された大谷石文化の中心地でもある大谷地域をはじめとする宇都宮市の北西部地域を，重要な拠点として位置付けた。この「魅力創造・交流の未来都市」の実現に向けて，2018 年３月には「第２次宇都宮市観光振興プラン」が策定され，この中で，「餃子の魅力」「大谷の魅力」「スポーツの魅力」をフル活用するプロジェクトなどの施策とともに，官民一体となって総合的・戦略的に観光を推進する具体的な手法についても示されている。

２．１．２　大谷地域振興方針

さらに 2018 年３月，宇都宮市は「大谷地域振興方針」を公表し，この中で「地域資源の有効活用」「地域振興の基軸となる機能の充実」「持続可能な地域振興の推進」を目標に掲げ，地域資源の特色等を踏まえたエリア設定による様々な事業展開を図ることにより，概ね 10 年後の年間入込客数を 120 万人にするとの目標値を設定している。大谷資料館や大谷寺などの観光資源が集中し，多くの観光客が周遊するエリアを対象に，新たな観光機能の立地誘導を図り，観光地としての拠点性を向上させることを目指している。また，この方針では，地域振興の目標と同時に大谷観光が包含する課題等も明確にされており，この地域が取り組むべき方向性が示されている。

３　大谷地域における観光の現状

３．１　観光客入込数の推移

大谷地域では，昭和 30 年代頃から観光業が盛んになり，1981 年には年間 116 万人の観光客を迎え入れるまでになっていたが，その後の大谷石産業の衰退や，1989 年２月に発生した坂本地区の大谷石採取場跡地の陥没事故などの影響もあり，観光客入込数は 66 万人に減少し，東日本大震災が発生した 2011 年には，17 万人まで落ち込んでいた。その後，行政や地域を中心とした観光振興に向けた取組[1)]が功を奏し，2016 年には 19 年ぶりに 60 万人を超える 62 万６千人に達し，さらに２年後の 2018 年には 77 万６千人まで増加している（図１）[2)]。

その後も，この地域の観光客入込数は順調な伸びを示していたが，2019 年 10 月の令和元年東日本台風により姿川が氾濫し，大谷地区コアエリアが浸水するなど，大きな被害に見舞われたことなどが影響し，年間入込数は 75 万８千人に減少している。さらに，2020 年，感染が拡大した新型コロナウイルス感染症の影響は，地域の観光業等に大きな打撃を与えており，大谷地域もその例外ではなく，観光客の大幅な減少が見込まれている。今後，災害や感染症などの様々なリスクが存在する状況下においても，持続的な地域振興を可能とする観光の在り方が問われている。

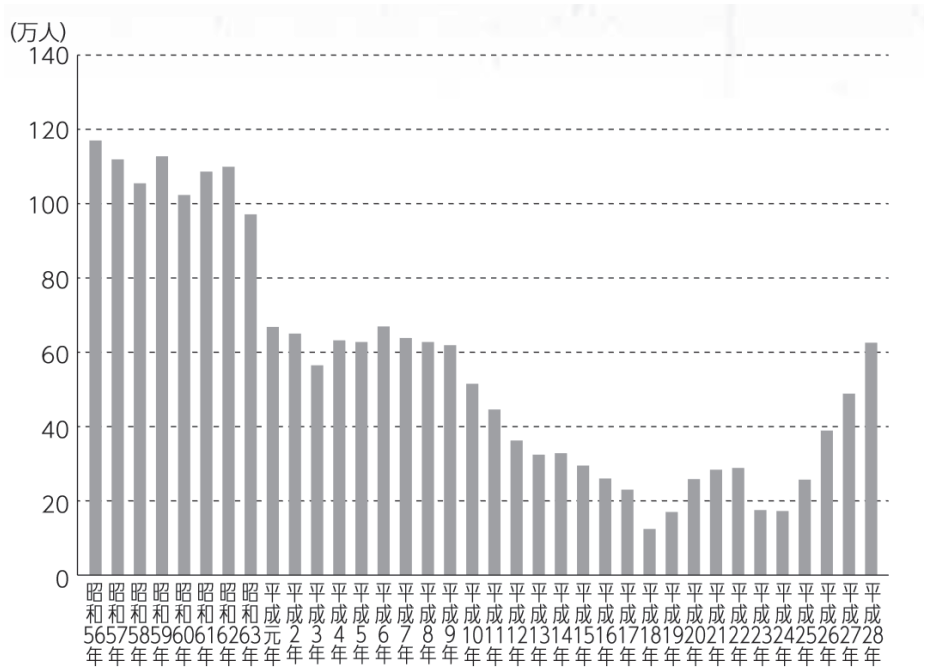

図１ 大谷地区の観光客入込数推移

（宇都宮市「広報うつのみや 2018 年 2 月号」別冊 3 頁より転載）

３．２　大谷観光における課題

３．２．１　周遊性の不足

大谷地域振興方針において課題の１つとして示されているのが，大谷観光の周遊性の不足である。「コアエリア」とされる大谷資料館，大谷寺，平和観音周辺エリアへの来訪者は確実に増加しているが，その周辺エリアを同時に訪れる観光客の数は増えていない。2018 年 10 月，大谷景観公園及び大谷資料館を会場として開催されていたイベント「フェスタ in 大谷」の会場において，ヒアリング調査を実施したところ，県外からの訪れていた個人の旅行者の多くは，「宇都宮で餃子を食べて，帰りがけに大谷を見る」との回答が，また，観光バスの団体旅行参加者は，「鬼怒川温泉のチェックイン前に大谷資料館に立ち寄るプランになっている」との回答が大半を占め，この課題を裏付ける結果であった。

その一因として，このエリアに飲食ができる店舗が少ないことが，周遊性が不足する一因ではないかとの見解は以前から存在した。ここ数年，飲食店の開業が続いてはいるものの，この課題を解決するレベルには至っていないのが現状である。

そのような中，宇都宮市は，2019 年からこの地域を訪れた観光客が安全かつ快適に周遊できるよう，「大谷地域観光交通社会実験」をはじめとする様々な社会実験を行っている。さらに，2021 年 2 月に，「大谷観光周遊拠点施設（仮称）整備基本計画」を策定し，滞在型観光を促すことを目的に，国登録有形文化財の「旧大谷公会堂」を市営大谷駐車場の隣接地に移築し，ビジターセンターや多目的スペースとして活用する「大谷観光周遊拠点施設 (仮称)」を 2023 年 3 月に供用開始すると公表[3] した。

行政によるこれらの取組みにより，地域の賑わいの創出とともに様々な観光情報が発信されることで，周遊の促進が図られるものと期待されている。

３．２．２　アクセスの課題

大谷観光において以前から課題とされているのが，公共交通機関の不足によるアクセスの悪さと，エリア内での移動である。

公共交通の利用による大谷のコアエリアに直接アクセス可能なバス路線は，立岩行きの１路線のみで，本数も限定的であり，自家用車によるアクセスが中心とならざるを得ない。宇都宮市は，繁忙期限定ではあるが，周遊バスを運行するなどの対策をとっているものの，利用者は限定的である。また，エリア内を周遊できる交通手段が存在せず，結果として，徒歩圏内であるコアエリアを中心とした範囲のみの周遊にならざるを得ない。

大谷観光周遊拠点の整備に合わせて，大谷地域周辺エリアを含めた周遊を可能とする交通手段導入の検討が期待されるが，利用者数の見込みや採算性など，不透明な部分が多く，新たな仕組みの構築は困難であると思われる。そこで，この地域が主体となって運行している地域内交通（城山地区地域内交通運営協議会が，タクシー会社に委託して運行している「城山孝子号」）の仕組みを活用することに，一考の余地があるのではないかと考える。現在，日曜祝日の運行は実施していないが，年間契約を行っている車両を利用し，週末に限り観光客の利用を可能とすることで，利用登録者に影響を与えず，収益を確保することも可能になる。ただし，導入を検討する上で，公共交通運営会社等との協議を行い，宇都宮市公共交通会議などに諮問し，国土交通大臣の認可を受ける必要があるなど，様々な制約があることも事実である。地域内交通の活用は，地域・観光客双方がその恩恵を享受できる手法になり得るのではないかと考える。

３．２．３　時期による繁閑の格差縮小

大谷観光の課題として，時期による繁閑の差が大きいことは，以前から指摘されており，特に大型連休や夏季に観光客が集中する傾向にある。これは，年間を通して年間平均気温が8℃前後に保たれ，冷涼な空間が広がっている大谷資料館の「クールスポット」としての人気の高さが，この傾向と連動している可能性が高い。これを裏付けたのが，2019年4月27日から5月6日の大型連休に宇都宮市が実施した「大谷地域観光交通社会実験」[4)]において得られた期間中の大谷資料館入館者数である。これによると，対象期間の10日間だけで計43,600人（最大値は5月3日の6,000人）が入館しており，年間入館者数が約50万人であることを鑑みると，約1割がこの時期に集中していることになる。

このことは，オーバーツーリズムの課題につながる危険性を孕んでいるだけでなく，年間を通じた観光客の入込数増加にも少なからぬ影響を与えていると推測される。言い換えれば，時期による繁閑の差を縮小することができれば，新たな課題を生じさせることなく，大谷地域の入込客数を増加させることが可能になるのではないだろうか。

３．２．４　旅行形態の変化

かつて，大谷地域において最大 116 万人の観光客入込数を記録した 1975 年頃の旅行形態は，学校の遠足や社員旅行などの団体旅行が中心であったが，その後，個人旅行へと変容が進むとともに，観光に対するニーズの多様化やインバウンドの増加など，地域観光を取り巻く状況は大きく変化している。このような状況下において，宇都宮市が策定した「大谷地域振興方針」では，当時を超える 120 万人の観光客入込数の達成を目標に掲げているが，この状況の変化に留意した施策の推進が求められている。

３．３　課題の解決に向けて

ここまで述べできたように，大谷観光には中長期的な多くの課題が存在している。これらの課題について，適切な対応を図り，目標である年間 120 万人の観光客入込数を実現するためには，大谷地区に近接する地域を含めた地域振興策を検討することも必要となってくる。これにより，大谷地域だけでなく，その周辺地域にもメリットが及ぶ取組とすることが期待できる

そこで本稿では，その可能性を大谷地域に隣接する多気地域に求め，当該地域が有する地域資源を洗い出し，磨き上げることにより，大谷観光を補完することの可能性について述べていく。

４　城山地区における観光資源分析

４．１　観光資源の洗い出し

本調査では，公益財団法人 日本交通公社が作成している「観光資源台帳」の区分及びランクを参考に，多気地域・大谷地域を含む城山地区内全域を対象とした観光資源の洗い出しを行い，独自の評価基準を定め，ランク付けの作業を実施した。抽出にあたっては，宇都宮市が公表している各種資料のほか，この地域のまちづくり協議会である城山地区コミュニティ協議会や自治会の関係者，さらには地区内の小･中学校関係者，地域住民などから聴取した情報などを参考にした。その結果をまとめたものが，表１，表２のとおりである。本稿では，多気地域に所在する観光資源を対象としているため，当該地域に関係する項目については，網掛けによる表示を行っている。

表１　城山地区地域観光資源一覧＜自然資源＞

区分	番号	区分名	資源1		資源2		資源3	
			名称	ランク	名称	ランク	名称	ランク
自然資源	1	山岳	多気山	s+	古賀志山	s	戸室山	b+
	2	高原・湿原・原野	細野湿原	b				
	3	湖沼	赤川ダム	a+	唐沢池	b		
	4	河川・峡谷	大谷景観公園（姿川）	s				
	5	滝						
	6	海岸・岬						
	7	岩石・洞窟	大谷石奇岩群	s+	緑色凝灰岩（大谷石）	s	御止山・越路岩	s
	8	動物	ムカシトンボ	a	蛍（赤川流域・戸室山麓水路）	b+	キジ（地域内各所）	b
	9	植物	孝子桜（城山西小）	s	多気山の草木	a+	大谷石奇岩群のセッコクラン	b+
	10	自然現象						

（宇都宮市が公表している各種資料を参考に筆者作成。ランクは現地ヒアリング調査により設定。）

表２　城山地区地域観光資源一覧＜人文資源＞

区分	番号	区分名	資源1		資源2		資源3	
			名称	ランク	名称	ランク	名称	ランク
人文資源	11	史跡	大谷磨崖仏	ss	平和観音	s+	羽下薬師	a
	12	神社・寺院・教会	大谷寺	s+	多氣山持寶院	s	能満寺	a
	13	城跡・城郭・宮殿	多気城跡	s	北原城	b	中城	b
	14	集落・街	大谷地区の景観	a+	鉄道等の軌道跡	a		
	15	郷土景観	小野口家住宅	s	屏風岩石材	a+	大久保石材店	a
	16	庭園・公園	大谷景観公園	s	森林公園	a+		
	17	建造物	旧大谷公会堂	s				
	18	年中行事（祭り・伝統行事）	大谷石夢あかり祭	s	多気山大火渡り祭	a+		
	19	動植物園・水族館						
	20	博物館・美術館	大谷資料館	ss	渡辺家住宅	a	大谷石細工	a+
	21	テーマ公園・テーマ施設	大谷公園	a+	大谷石採取場跡地	a+	地底湖クルーズ	s
	22	温泉						
	23	食	餃子（高橋餃子）	a	城山 耳うどん	b		
	24	芸能・興行・イベント	ジャパンカップサイクルロードレース	ss+	フェスタin大谷	a+		
	25	その他人文資源	民話（古賀志の孝子桜）	s	民話（多気城運命の日 ほか）	b	天棚（田野，野尻・長坂ほか）	b+

（宇都宮市が公表している各種資料を参考に筆者作成。ランクは現地ヒアリング調査により設定。）

表３　観光資源分類基準

区分	番号	区分名	内　　容
自然資源	1	山岳	地形図に山岳として名称が記載されているもので，観光的に魅力のあるもの。山岳の範囲は，山頂，山腹，山麓・すそ野を含めた広い範囲とする。
	2	高原・湿原・原野	地形図に，名称が記載されている高原，原野またはこれに類するものと，沼沢以外の湿原で，観光的に魅力のあるもの。
	3	湖沼	地形図に単独の湖沼として名称が記載されているもの，またはそれに類するもので，観光的に魅力のあるもの。
	4	河川・峡谷	河川風景（河川＋周辺）で，観光的に魅力のあるもの。
	5	滝	地形図に滝または諸瀑として名称が記載されているもので，観光的に魅力のあるもの。
	6	海岸・岬	砂浜，砂丘，砂州，岩礁，断崖などによって構成される海岸風景（背後地，松原も含める），および容易に見ることができる海中景観で観光的に魅力のあるもの。
	7	岩石・洞窟	岩柱，洞窟，洞穴，岩門，鍾乳洞，溶岩流，溶岩原，賽の河原，断崖，岸壁，岩礁，海蝕崖，海蝕洞などの地質及び地形上の興味対象で，観光的に魅力のあるもの。
	8	動物	日本特有の動物，日本の自然環境における特有の動物，日本著名の動物及びその生息地で，観光的に魅力のあるもの。
	9	植物	名木，巨樹，老樹，並木，森林，植物帯，植物群落，自生地，限界地などで，観光的に魅力のあるもの。
	10	自然現象	火山現象，潮流現象，気象現象などの自然現象で学術的に価値の高いもの，観光的に魅力のあるもの。
人文資源	11	史跡	生活，政治，祭，信仰，教育学芸，社会事業，産業土木，外国人などに関する遺跡（城跡は除く）で，観光的に魅力のあるもの。
	12	神社・寺院・教会	由緒ある建築的に優れた社寺，文化財を所蔵または付帯する社寺，境内（庭園を含む）が優れている社寺などで，観光的に魅力のあるもの。
	13	城跡・城郭・宮殿	古代から近世に至る軍事や行政府等の目的で建造された城跡・城郭（庭園を含む）・宮殿で，観光的魅力のあるもの。
	14	集落・街	農山漁村や歴史的街並み，繁華街，商店街などにより，その土地の自然や歴史，文化を表す特徴的な集落・街区を構成している地区で，観光的に魅力のあるもの。
	15	郷土景観	生業や風習，その土地の産業，人の織りなす風景など，その土地の自然環境や歴史，文化を表す特徴的な景観を構成している地区で，観光的に魅力のあるもの。
	16	庭園・公園	鑑賞や散策などのために作庭および造成された庭園・公園で，観光的に魅力のあるもの。
	17	建造物	建物，橋，塔などの建築物や構築物（社寺，城郭に含まれるものを除く）で観光的に魅力のあるもの。
	18	年中行事（祭り・伝統行事）	社寺や市町村あるいは各種団体が開催日を決め年中行事として行われているもののうち，観光的に魅力のあるもの。
	19	動植物園・水族館	国内外の動植物を収集，飼育，展示している施設で，観光的に魅力のあるもの。
	20	博物館・美術館	国内外の歴史的資料・科学的資料や美術作品（絵画，彫刻，工芸品等）を収集，保存，展示している施設，および歴史的事象などの記録，保存等のために作られた園地で，観光的に魅力のあるもの。
	21	テーマ公園・テーマ施設	特徴的な概念（テーマ）を表現し，それを体験するために作られた園地や施設で，観光的に魅力のあるもの。
	22	温泉	温泉浴を体験できる施設またはその場での温浴行為で，観光的に魅力のあるもの。
	23	食	日本または地域の自然や歴史，文化を表す特徴的な食事や食文化，食事環境で，観光的に魅力のあるもの。
	24	芸能・興行・イベント	日本または地域の歴史，文化を表す興行や芸能，イベントで，観光的に魅力のあるもの。
	25	その他人文資源	上記に該当しない地域固有の人文資源で，観光的に魅力のあるもの。

（公益財団法人日本交通公社「観光資源台帳」を参考に筆者作成。）

表４　観光資源評価基準

城山地区観光資源調査		観光資源台帳		
ランク	評価基準	ランク		評価基準
ss+	わが国を代表する資源であり，世界に誇示しうるもの。日本人の誇り，日本のアイデンティティを強く示すもの。人生のうちで一度は訪れたいもの	S	特A級資源	わが国を代表する資源であり，世界に誇示しうるもの。日本人の誇り，日本のアイデンティティを強く示すもの。人生のうちで一度は訪れたいもの
ss	ss++ランクの資源に準じ，わが国を代表する資源であり，日本人の誇り，日本のアイデンティティを示すもの。人生のうちで一度は訪れたいもの。	A	A級資源	特A級に準じ，わが国を代表する資源であり，日本人の誇り，日本のアイデンティティを示すもの。人生のうちで一度は訪れたいもの。
s+	その都道府県を代表する資源であり，その地域の誇り，地域のアイデンティティを強く示すもの。その地域を訪れた際にはぜひ立ち寄りたいもの。	B	特別地域観光資源	その都道府県や市町村を代表する資源であり，その土地のアイデンティティを示すもの。その土地を訪れた際にはぜひ立ち寄りたいもの。また，その土地に住んでいる方であれば一度は訪れたいもの
s	その市町村を代表する資源であり，その地域の誇り，地域のアイデンティティを強く示すもの。その地域を訪れた際にはぜひ立ち寄りたいもの。	－	－	－
a+	その地域を代表する資源であり，その地域の誇り，地域のアイデンティティを示すもの。その地域を訪れた際は立ち寄りたいもの。	－	－	－
a	その地域を代表する資源であり，その地域を訪れた際は立ち寄りたいもの。	－	－	－
b+	その地域が有している資源であり，その地域の誇り，地域のアイデンティティを示すもの。その地域を訪れた際は立ち寄りたいもの。	－	－	－
b	その地域が有している資源であり，その地域を訪れた際は立ち寄りたいもの。	－	－	－

（公益財団法人日本交通公社「観光資源台帳」を参考に筆者作成）

４．２　観光資源の分析

この結果から，宇都宮市の観光拠点とされる北西部の城山地区には，数多くの観光資源が存在していることを改めて確認することができる。同時に，これらの観光資源が，大谷地域に近接するエリアに多数存在していることがわかる。これらの観光資源を連携させ，相互に補完する形による新たな観光のストーリーを検討することで，この地域全体の更なる発展につながるものになると考える。

本稿では，大谷観光を補完するとの視点から，「歴史的資源」と「スポーツ資源」の２点に焦点を当て，観光資源の概要を述べるとともに，地域振興に向けた活用の可能性について考察する。

４．３　多気地域の観光資源

４．３．１　多気地域の概要

本稿で対象とする「多気地域」は，宇都宮市の中心部から北西約 10km に位置し，多気山及びその山麓を含めたエリアであり，観光拠点となっている大谷地域に近接する田下町・田野町・福岡町・大谷町の一部である。この中心には，栃木百名山の１つに選定されている標高 376.9m の多気山があり，1983 年（昭和 58 年），この山全体が「多気城跡」として，埋蔵文化財に登録されている。

この地域は，栃木県立自然公園にも指定されており，暖帯と温帯の境に位置しているため，植物の種類が豊富である[6)]。特に，多気山持寶院の社叢には，多くの常緑樹が茂る暖帯林の北限としても知られている。

４．３．２　多気地域の歴史的資源１　多気城跡

これ以降，この地域に存在する個々の観光資源の特長を，「歴史的資源」と「スポーツ資源」の２つに分けて概説する。

多気城跡は，中世における関東最大級の山城として全国的にも知られており，宇都宮氏が一時本拠としたことでも知られている。この地域の呼称である「城山地区」の由来であるとも言われており，地域住民にとっては愛着のある場所である。

その歴史は古く，1063 年（康平 6 年），地形的条件を備えた多気山に，宇都宮氏の祖である藤原宗円が築城したと伝えられており，かつては山頂部に本丸があったとされ，建物があった形跡が山頂付近の御殿平に残されている。また，山の南側には城廓が存在し，山裾部には総延長 2km に及ぶ大規模な堀が巡らされていたと言われている。その後も，改築等を経て，1597 年（慶長 2 年），第 22 代宇都宮藩主である宇都宮国綱が所領を没収されたことに伴い廃城となるまで，宇都宮氏の重臣が出城の要害地として居城しており，戦国時代末期の天正年間には，本城として機能していたことも，文献等から明らかになっている。この城が廃城に至った逸話は，若干史実とは異なる部分もあるが,「多気城運命の日」という民話として, この地区を中心に語り継がれている。

この城は，山城としての規模が大きく，中世宇都宮氏の動向を知る上で欠かすことのできない重要な城であるが，これまで発掘調査等はほとんど行われていない。1991 年，林道東多気線の整備工事に伴い，外郭の堀を張り出させた曲輪部分の発掘調査が行われたのみである。今後の発掘調査によって，この山城の全体像が少しずつ紐解かれ，戦国時代の宇都宮の姿が明らかになることを期待したい。

４．３．３　多気地域の歴史的資源２　多気山不動尊（多氣山持寶院）

多気山の中腹に位置し，822 年（弘仁 13 年），日光開山勝道上人の弟子尊鎮法師により創建された，真言宗智山派の寺院である。当初，馬頭観音を本尊としていたが，1335 年（建武 2 年），第 9 代宇都宮藩主 藤原公綱により, 氏家の勝山城から不動明王が本尊として遷座され, 現在に至っている。

多気山不動尊は，北関東不動尊霊場第 18 番札所となっており，最近では御朱印を拝受する方を含め，数多くの参拝者が訪れているほか，毎年 5 月に開催される「多氣山 大火渡り祭」には，全国各地から多くの方が訪れて渡火を行い，肌守りを授与されている。

また，多気山不動尊では，自転車の交通安全・無事故祈願が行われており，ロードバイクチーム等の安全祈願・必勝祈願なども行われており，宇都宮市を拠点として活動している自転車ロードレースチーム「宇都宮ブリッツェン」が毎年，安全祈願・必勝祈願を行っていることでも有名である。[7]

４．３．４　多気地域のスポーツ資源１　自転車

大谷観光の周遊エリアを多気地域まで拡大することにより，屋外型アクティビティとの組み合わせによる滞在型ツーリズムの設定も可能となる。ここでは，多気地域が有する観光資源である

「自転車」と「山」の2点について概説する。

多気山の西麓は，毎年10月に開催され，UJIワールドツアーチームが参戦するアジア最高峰の国際自転車ロードレース「ジャパンカップサイクルロードレース」の森林公園周回コースの一部となっており，世界的にも知名度が向上しているエリアである。北麓の「下野萩の道」も，かつてはジャパンカップのコースの一部となっていたが，2015年の台風による被害の影響により，現在，このレースでは使用されていないが，国内のJプロツアー「宇都宮ロードレース」のコースの一部として使用されており，毎年多くの観客がこの地域を訪れているだけでなく，このコースを走行する自転車愛好家の数も多い。

多気山周辺は地形にも恵まれており，ヒルクライムを含む山岳コースを楽しむ新たな自転車ルートの設定も可能である。例えば，林道東多気線・西多気線・南多気線を利用することで，道路の幅員が公認レースを開催する基準を満たしていない部分もあるが，高低差や距離が十分確保でき，周辺道路との交差部分も少ないことから，ジュニアクラスのレースであれば，開催は十分に可能である。また，競技会を開催しなくとも，山岳周遊コースとして設定することで，自転車愛好家を呼び込む十分な魅力を有していると考えられる。

城山地区の地域住民も，その可能性を視野に入れており，城山地区連合自治会が中心となった不法投棄監視パトロールや清掃活動などの地域活動の対象エリアとしての設定を行っている。また，この地域の統合型地域スポーツクラブである「ジョイスポしろやま」の関係者は，恵まれた自転車走行環境があることを活かし，森林公園サイクリングターミナルの指定管理者である「宇都宮ブリッツェン」の運営会社であるスポーツサイクルマネジメントの協力を仰ぎ，自転車競技を団体活動の対象種目の1つとして採用することを検討する余地があると考えている。

これらの取組が実現すれば，自転車競技の聖地としての「宇都宮」の更なる発展につながるだけでなく，大谷観光の周遊性向上に寄与するものとして大きな可能性があると考える。

４．３．５　多気地域のスポーツ資源２　登山・ハイキング

多気山（標高：376.9m）は，栃木の山100選にも選定されており，西側の市営駐車場から御殿平に至る「七曲がり登山道」及び多気山不動尊境内から山頂付近に至る2つのルートが整備されており，多くの登山愛好家が訪れている。

また，登山道としては未整備であるため一般的な登山ルートになっていないが，山頂付近と「下野萩の道」の権現神社付近にある森林公園側登山口を結ぶルートも存在している。詳細については後述するが，まちづくり協議会や多気山観光協力会などの地域が主体となった活動として，2019年度からこの登山道の整備作業が進められており，数年後には，北側からの登山道も整備される見込みである。このルートが利用できれば，北に隣接する雲雀鳥屋（ひばりがとや）標高362m，さらには森林公園につながる天狗鳥屋（てんぐとや）標高365mまでの尾根を縦走することができる低山登山ルートの設定が可能になる。

かつては，多気山不動尊の参道には，複数の飲食店や宿泊施設が軒を連ね，特に「多気山のお団子」を求めて多くの観光客が訪れていたが，現在も営業を続けているのは，市営駐車場に隣接

する「桃畑茶屋」1 店舗のみとなっている。山を登った後に，おみやげとして購入するのも良いが，団子を購入し，山頂の御殿平の東屋で，多気山の四季折々の豊かな自然や深い歴史を感じながら，また，御殿平で宇都宮の遠景を楽しみながら団子を食すという時間の過ごし方も風流なものではないだろうか。

5　地域との連携による取組

5．1　城山地区の概要

本稿の対象としている多気や大谷を含むこの地域は，宇都宮市の行政区分において「城山地区」とされており，1954 年（昭和 29 年）の市町村合併によって宇都宮市に統合された旧城山村を中心とした地域である。この地区の名称ともなっている「城山」は，前述した多気山にあった山城「多気城」に由来があるといわれている。

5．2　城山地区における取組み

5．2．1　城山地域ビジョン

城山地区では，まちづくり協議会である城山地区コミュニティ協議会が中心となり，2015 年（平成 27 年）8 月に，「子どもから高齢者まで心豊かに安心して暮らせるまちにしたい」「これからもずっと住みたい，良さを残したい」「将来，子どもたちが誇れるまちにしたい」などの住民の想いをみんなで実現するための，長期的なまちづくりの指針として「城山地域ビジョン」を策定した。「安全・安心・教育」「健康・福祉」「地域コミュニティ」「観光・地域産業」の４つの部会を設置して，地域を主体とする様々な取組みを行っている。

宇都宮市が策定した「大谷地域振興方針」などとも連携した取組みを推進し，これまでも地域振興に向けた様々な事業を展開している。

5．2．2　地域主体の各種事業

多気地域を対象として，地域が主体となって実施している事業の代表的なものに，「よみがえれ大谷プロジェクトエコ実行委員会」の活動がある。1989 年（平成元年）2 月の陥没事故などの影響により，衰退の一途をたどっていた大谷や多気地域を，地域住民の力で蘇らせようという目的で，まちづくり協議会である城山地区コミュニティ協議会を中心に，地域内の各種団体，学校関係者，観光協力会，地元有志，造園業者などで構成された組織であり，ここ数年は，秋と春の年 2 回，多気山周辺の環境整備作業が活動の中心となっており，多気不動尊参道の紫陽花の手入れ，登山道整備，山頂付近の御殿平や中腹の「しもつけの森」への桜の植栽などを行っている。

5．2．3　地域との連携による体制構築に向けて

このエリアの観光を推進していく上で，連携機能の不足を感じる場面が多い。観光庁などは，行政と事業者，さらに地域との効果的な連携を実現するための機能としてＤＭＯ (Destination Management / Marketing Organization) などの設置を推奨している。このような組織が中心と

なり，構成団体の１つとして，城山地区コミュニティ協議会などの地域団体が参画することによって，地域の主体性を確保しつつ，地域観光に関する諸課題への適切な対応が可能となり，持続可能な地域振興に繋がるものと考える。

６　まとめ

近江商人の経営理念である「売り手よし，買い手よし，世間よし」の「三方よし」の考え方を，地域観光に当てはめれば，ステークホルダーである「事業者」（観光を振興する立場の行政を含む），「来訪者」，「地域住民」の「三方よし」となることが，持続可能な地域振興につながると言えるのではないだろうか。本稿の対象とした多気地域・大谷地域を含む城山地区においても，これらの良好な関係が構築され，地域住民とベクトルを合わせた取組が行われることで，一過性のものではない，地域に根付いた振興策とすることができるものと考える。

今後，これらの動向を注視しながら，この地域の発展を見守っていきたい。

【注】

１）当時の「第５次宇都宮市総合計画」「宇都宮市都市計画マスタープラン」などにおいて，大谷地域振興の課題として，自然景観や大谷観音などの観光資源を活用する「観光拠点としての機能向上」が挙げられており，これに基づいて策定された「大谷観光推進計画」などに沿って，「歴史・文化資源の保存と継承」「大谷石産業の振興」「観光拠点としての魅力向上」を基本テーマとして設定し，地域の活性化に向けた様々な事業が展開されていた。その主なものに「フェスタ in 大谷」「大谷石夢あかり祭」の開催や，「大谷学講座」の開講などがある。

２）『広報うつのみや』2018 年２月号・広報うつのみやプラス「新発見 大谷の魅力」，https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/015/474/ooyaplus.pdf（2021 年３月 13 日閲覧）

３）2021 年２月 22 日に開かれた宇都宮市長 定例記者会見において，「大谷観光周遊拠点施設（仮称）整備基本計画」に基づき，（仮称）大谷観光周遊拠点施設を整備することが公表された。本稿の対象としている多気地域を含めた周遊拠点となりうる計画ではあるが，事業の詳細が公表されていないため，計画が公表された点についてのみ述べている。

４）「大谷地域振興方針」の目標である年間 120 万人の観光入込客数を実現し，地域内の交通環境の向上を図るため，ゴールデンウィーク及びお盆の大型連休などに合わせて，2019 年から宇都宮市が実施している社会実験であり，基軸となる安全で快適な交通インフラの構築に向けた「交通状況に関する情報発信」「パーク＆バスライドの実施」「グリーンスローモビリティの運行」などの事業が試験的に実施されている。

５）公益財団法人 日本交通公社 ホームページ「観光資源台帳」https://www.jtb.or.jp/research/theme/resource/tourism-resource-list/（2021 年３月 20 日 閲覧）

６）栃木県ホームページ「とちぎの自然公園　宇都宮県立自然公園＜森と湖と奇岩の景勝地＞」，http://www.pref.tochigi.lg.jp/d04/intro/shizen/kouen/kouen.html（2021 年３月 13 日閲覧）

７）多気山不動尊ホームページ「自転車の交通安全祈願」，https://tagesan.com/jitensya/（2021年３月13日閲覧）

【参考文献・情報】

[1] 宇都宮市（2018）「第６次 宇都宮市総合計画」
[2] 宇都宮市（2018）「第２次 宇都宮市観光振興プラン」
[3] 宇都宮市（2018）「大谷地域振興方針」
[4] 宇都宮市（1984）『うつのみやの歴史』
[5] 宇都宮市教育委員会（2008）「石のまち大谷の文化的景観 保存計画報告書」pp.74-78
[6] 宇都宮市教育委員会（2018）「宇都宮市 歴史文化基本構想」
[7] 宇都宮市教育委員会（1997）宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第42集「多気城跡－林道東多気線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－」pp.1-6
[8] 徳田浩淳（1996）『宇都宮郷土史 [再編復刻版]』メディアハウス
[9] 城山地区コミュニティ協議会（2015）「城山地域ビジョン」pp.1-3